ギャラリー仲摩通信

二〇二一年五、六月合併号

ギャラリー仲摩は、この六月十二日に創立三十九 Thank you 年を迎えることが出来ました。ひとえに皆様方のご愛顧の賜物と心よりお礼申し上げます。

田園調布、雪谷、銀座、横浜と所変れど、今日迄、ガラスアートの魅力を伝道して参りました。

どうぞ、今後共宜しくお願い申し上げます。

今号では、私共の活動が掲載された記事並びに、特に縁が深かったチェコとの交流をご紹介致します。

大変久しぶりに、ホームページを更新致しました。まだ未完成ですが、徐々に充実させて参ります。ご購入頂ける作品を主に掲載し、ギャラリー仲摩通信もお読み頂けます。ぜひ、ご覧ください。

http://www.nakama.co.jp

1982～2004 田園調布

1991～1993 雪谷

2004～2009　銀座

日本の『現代ガラス』

『美術の窓』（生活の友社）の連載、『拡張するガラス JAPAN』「第16回 80年代の展開」（五月号）で、美術評論家の武田厚先生が佐納孝子さんと私共の活動を紹介してくださいました。

私共の仕事は、作家の先生方の作品を紹介し販売が主ですが、歴史の浅いガラスアートの魅力を、多くの皆様に知って頂けるよう、各所での展覧会を始め、建築へのアプローチ、講演会、本冊子の発行、音楽とのコラボレーションやパーティ、作家を訪ねる旅など様々な事業を行ってきました。そうした活動を認めて頂き、大変励みになりました。

音楽会と共にチェコの展覧会

紀尾井ホール／2000 年 6 月

イラストレータースタジオを経営していた佐納孝子さんは、クライアント獲得の為、ヤマハの川上源一（元）会長に手紙を送りました。なんとも豪快です！翌日には、さっそく川上会長からの電話。ヤマハが開設した各地の家具ショップの集客となる珍しいものを見つけてほしいという川上会長からの要請でした。

こうして始まったお二人の出会いは、一九七九年の第一回「アメリカン・グラス・ナウ」展として結実し、各地のヤマハ家具店を巡回し、アメリカのスタジオグラス作品が日本に紹介されました。

その後、欧州の作家が加わり、長年に渡り欧米の現代ガラスを日本に紹介し続けた佐納さんは、現代ガラス伝道の先駆者です。

佐納孝子著　1988 年

佐納さんも私も優れた現代ガラスを紹介するという共通の使命感に燃え、いつの日からか同志のような関係になり、アメリカ在住の佐納さんが来日された時には、定宿のホテルのレストランで朝食を摂りながらお互いの士気を高めたものでした。

今は亡き、佐納さんに敬意を表して、この記事を捧げたいと思います。

『拡張するガラス JAPAN』は『美術の窓』二〇二〇年二月号から始まった武田厚先生の連載で二〇二二年春頃まで続くそうです。

二月号 第1回「序にかえて ――現代美術としてのガラス」
三月号 第2回「江戸から大正まで――史的概観」
四月号 第3回「昭和のガラス――戦前の動き」
五月号 第4回「昭和のガラス――作家意識の目覚め」
六月号 第5回「岩田藤七 ――げてものからアートへ」
七月号 第6回「各務鑛三 ――クリスタルガラスへの思い」
八月号 第7回「昭和のガラス――戦後の展開」
九月号 第8回「ガラスとデザイン――淡島雅吉／佐藤潤四郎」
十月号 第9回「日本ガラス工芸協会の役割と成果」
十一月号第10回「藤田喬平が開いた世界(1)――自　立の実験」
十二月号第11回「藤田喬平が開いた世界(2)――『飾筥』について」
二〇二一年
一月号 第12回「藤田喬平が開いた世界(3)――国際化について」
二月号 第13回「ガラスと教育(1)――多摩美からはじまる」
三月号 第14回「ガラスと教育(2)――北陸でのユニークな展開」
四月号 第15回「もう一つの『ガラスと教育』――公益的工房の存在と活動」
五月号 第16回「現代ガラスを探す――80年代の展開」

佐納さんとギャラリー仲摩が紹介された美術の窓５月号

六月号　第17回「現代ガラスを掴む――盛期としての90年代」

七月号　第18回「21世紀を迎えた現代ガラス――その活動と背景」

ＴＲＩ　ＡＲＴ設立

初めてチェコを訪ねた一九八六年、チェコスロバキア社会主義共和国は、全てが国の統治下にありました。

ダナ・ザメチニコヴァーさん訪問時、「手紙は開封され、電話は盗聴されている。」と言ったダナさんの言葉が今も鮮明に蘇ります。

あらゆるものが（芸術の輸出入さえ）国の機関を介して取引されていました。

一九八九年秋、チェコの政治体制が変わり、民間会社設立の可能性が数十年ぶりに認められました。

アートセントラム（国営芸術作品輸出会社）のマネジャーだったピーター・チルカ氏の独立起業にあたり、氏と共に一九九一年、有限会社ＴＲＩ　ＡＲＴを設立しました。

以来、今日までＴＲＩ　ＡＲＴはギャラリー仲摩のチェコ共和国支社としての役割を果たしてくれています。

◆親愛なる同僚、ピーター

今、当時を振り返れば、ピーターと私の信頼関係は薄く、理解しあうのには時間を要しましたが、今では、最も信頼するビジネスパートナーです。

慌てず、騒がずのピーターに助けられ、展覧会や建築物と融合したガラスアートのプロデュース他、数々の事業を行うことが出来ました。

リベンスキー教授が教えてくれたピーターのウイットに富んだ一面をご紹介します。

アメリカでリベンスキー教授が講演をされた時の事です。講演の後、ある学生が「教授は大変すてきなネクタイをされていますが、いつもそのようにオシャレをされているのですか？」想像を超えた質問に、リベンスキー教授が絶句していたら、ピーターがすかさず、「あなたのために！」と助け船を出してくれたそうです。

リベンスキー教授（左）

ピーター（右）

◆ダナ・ザメチニコヴァーさん

ダナさんに多くの出会いを頂き、いくつもの貴重な経験をしました。

前述のＴＲＩ　ＡＲＴ設立は、ダナさんの奨めがきっかけでした。

横浜美術館アートギャラリーでの『コンテンポラリーグラス　チェコスロバキア６人の巨匠』展を元に、一九九五年、プラハ城で『SPACE　LIGHT　GLASS』が開催されました。

私共のお客様も協賛してくださいましたことをご報告申し上げます。感謝！

この展覧会は、翌年、アメリカンクラフトミュージアム（ＮＹ）に巡回しました。

板ガラスに絵付けを施し立体的に構成したダナさんの作品は、コレクターに根強い人気があり、世界各国の主要な術館に所蔵されていま

ハベルチェコ共和国初代大統領とダナさん

PORTRAIT

H46・W38・D22cm

日本に於いても高い評価得、国際ガラス展・金沢，92でグランプリを受賞しました。（写真右）

ダナさんの作品は、西伊豆の黄金崎クリスタルパークガラスミュージアム常設展示室で、ご覧になれます。（写真右下）

魚を持つ女

H150・W130・D80cm

黄金崎ガラスミュージアム

お薦めの展覧会

◆七月十日から十月三日迄、富山市ガラス美術館で『富山ガラス大賞展』開催。

編集後記

久しぶりに佐納さんの『私は旅がらす』を開き、「旅と人と芸術が好き」という言葉に共感しながら、読み進みました。スタジオグラスが始まった詳細な経緯を始め、今となっては知ることのできない貴重な話が盛沢山。ギャラリー仲摩通信に回想を書きつつ、これでいいのかと自問自答していましたが、過去の記述も必要だと勇気付けられました。

諸般の事情で今号の発行が大幅に遅れたことをお詫び申し上げます。（仲摩）

《編集・発行》ギャラリー仲摩
横浜市緑区三保町二〇六〇番地
TEL:090-1053-6642　FAX:045-507-3080
http://www.nakama.co.jp
nakama@nakama.co.jp